

ら出る。又陸前國渡波附近の介塚のも恐らくこれである。更に東京谷中介塚の猪も破片の限りより判断すれば津雲型ならでこの猪である。

本邦の先史時代土偶には双眼に遮光器を掛けたものがある。遮光器及その他の土俗(土俗で人種は同定出来ぬ)が大陸のずつと北部の雪國のそれに似て居るとの事である。猪及鹿が大陸型的であり、又その鹿が今の内地鹿よりも北方の型である事と照合して甚だ面白い事である。今日でも幾分その氣味ある東北地方は當時にあつては一層大陸的の風土と一層凜烈な寒氣候とが支配して居たろうと思はれる。

瀬澤介塚探查の結果は北海道に於る古今の鹿が如何なるものであるか、又北海道に限らず樺太、朝鮮、滿洲等の先史時代動物群が如何なるものであるか等の問題に向つて興味を唆る。予は今夏を以て先づ北へ行く。

(松本彦七郎)

● パラフィンのリボン巻

『ペンシルバニア』大學の R. T. HANCE は去年パラフィンのリボン巻きの簡單なるものを記載したり長さ四寸直徑二寸位のボール紙の圓筒の兩端に細きコルクの栓をなし之にガラス棒を貫けるものなり切片のリボンが出で來るときに之に巻くなり切片を數週間も其上に保存し有る由、ボール紙圓筒の代りに竹筒を以すれば便利ならん。

(谷津直秀)

● ギボシムシの糞と「アレニコラ」の糞

去る四月上旬福岡醫科大學の櫻井博士に乞うて津屋崎の臨海實驗所を拜見した、此處は嘗て青木理學士が滞在して調査せられた事があるが未だ本誌には見えた事が無い様であるあるら序に茲に紹介して置く。

津屋崎は筑前宗像郡に屬して玄界灘に面し、福岡市の北方約六里、汽車と馬車とによれば一時間餘で達する。以前福岡縣水產試驗場があつたが先年その建物と地所とを大學に寄贈せられたので後來萬般の施設が完成したならば有用な實驗所となるであらう。

此の地は鯛の産地として名高いが沿岸のフォーナは概して淋しく、磯を一瞥するとダイガセ、ヨメガサラ、イソギンチャクなどがある外に稀にカメノテ、フデツボ、ムラサキウニ等を見る位、灣外に底曳を試みるに僅にモミヂガヒ、イトマキヒトデ、クモヒトデ、ブンブクチャガマ等が獲らるゝに過ぎぬ。

けれども轉じて入江の中を見ると此處は可なり面白い事がある、梅雨の頃にはカブトガニが盛に押よせて産卵に來る相で、昨年神田左京氏が滞在中幼蟲を發見せられたが、私の行つた時は夫は見られなかつた代りに干潮時に現るゝ廣汎な干潟の一部にギボシムシの棲息する事を見た、外にこの干潟の沙泥を掘ると「アレニコラ」シ

(雜 錄) ○「アノフェレス」蚊の飛翔力

二二

「ブンクルス」、「シナブタ」、シヤミセンガヒ、マテ、オホノガヒ等が出る、僅々一兩日の滞在で到底思ふ様な見物は出来なかつたが落付いて調べたならばなほ種々のものが現るゝ事であらう。

さてギボシムシと「アレニコーラ」とは屢同じ場所に棲息し同じ様に紐状の砂の糞堆(Sandwibel)を地上に押上げる事は人の知る所であるか、その糞堆が極めてよく互に似て居る所から外部から見た丈では殆ど區別が出来兼ねる。

G. STIASNY はギボシムシの發生を研究(本誌第二五卷第三〇二號抄録參照)する傍ら此の蟲の生態に就て知り得た所を三回に亘つて「Zoologischer Anzeiger」に報告して居るが(一九一〇、一九一二兩年)、彼に従へば *Balanoglossus clavigerus* と稱するギボシムシでは糞堆から約一〇乃至三〇糞の距離に楕鉢形の小凹陥があつて蟲は三〇乃至六〇糞の深さに U 字形の孔を穿ち、この楕鉢形の穴に前端を向け糞堆のある所に後端を置く、そして「アレニコーラ」の糞堆との違ひはギボシムシのは一塊となつて高く盛上つて居るが「アレニコーラ」のは左程高くなく且數塊に分れて孔の附近に放射狀に並んで居るといふ點である。

生憎寫眞の準備が不完全であつたため撮影して置く事が出来なかつたが、三崎などでの經驗とも前記スチアスニーの記載とも違つて、ギボシムシの場合にも甚しく堆

積して居ず又『數塊に分れて放射狀に並んだ』所を掘つてギボシムシが出た事もあつた、又兩者が極く接近して棲んで居たるため果してその糞堆がどちらの動物に屬するか判らぬ場合もあつた、たゞギボシムシの棲息地は極めて局限せられた小區域であつて、入江の遙か口に近い渡船場の附近や實驗所の前面に多く散見する糞堆は悉く「アレニコーラ」のであつた、之は明かに散亂せずして堆く一塊をなし且つその下の地面が鈍く隆起して居るのが多い様であつた。スチアスニーの記載と違ふのは動物の種の異なるにもよるであらう、尙ほ將來機會あらば注意したいと思ふが敢て記して大方の教示を仰ぎたいと思ふ。

(大島廣)

●「アノフェレス」蚊の飛翔力

マラリア病豫防の一方法として「アノフェレス」蚊の撲滅又は之を避ける事は最も肝要の事である、近頃米國に於て *Ph. pringlei*、*Ph. punctipennis* 及び *Ph. fitchii* は此の見地から *Anopheles quadrimaculatus* の飛翔力を實驗的に調査し其の結果を次の如く報告して居る。

一九一四年から一九一五年にかけ水地のマラリア病研究の傍調査した所によると著しく此種の蚊の蕃殖する場所から一哩以上隔つた處の建物内には此の種の蚊が甚だ稀に見出されるのである。而して最も盛に蕃殖する場所から一哩四分の一を隔てた處の人家小舎内には全く此種